

平成29年度 第55回 仙台城南高等学校 卒業証書授与式
校長式辞

今年の冬は数年に一度という寒気が日本列島に襲来するなど、厳しい状況が続いておりましたが、ここ八木山にも少しずつ春の足音が近づいてまいりました。

本日、多くの御来賓そして保護者の皆様の御臨席を得て、平成29年度仙台城南高等学校第55回卒業証書授与式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして大きな喜びでございます。

ただ今、特進科生19名、探究科生173名、科学技術科生142名の計334名の生徒の皆さんに卒業証書を授与いたしました。卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんは、今日という日を迎え、今、希望に胸を膨らませていることでしょうか。しかし、本日の卒業は、これまで皆さんをどんな時でも温かく見守って下さった御家族、辛い時でも一緒に悩み励ましてくれた友達、また、時には優しく時には厳しく指導に当たって下さった先生方など多くの方々への支えが有ったのことで、高校卒業と言う人生における一つの節目に当たり、改めて感謝の気持ちを持って頂きたいと思っております。

また、保護者の皆様に於かれましても、本日は誠にありがとうございます。お子様の晴れの姿を目の当たりにされ、感慨もひとしおのことと存じます。これまでの御努力に対し敬意を表しますと共に、これまでの本校教育に対する御理解、御支援に改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、今年度は校名変更後5年目に当たる節目の年でもありましたが、最上級生としての皆さんの大活躍により、学校全体が活気に満ち溢れ、また更なる飛躍が実感できた一年となりました。

8月に宮城野区文化センターで開催した「文化部合同発表会」は、ホール全体が保護者の皆様などで満員で埋め尽くされましたが、とても3年目とは思えない完成度の高い各文化部の発表や演出、それに、実行委員会を中心とした生徒の皆さんの円滑な運営に感心した一日となりました。

また、9月に開催した、本校の文化祭である城南フェスティバルは、昨年の2倍に迫る、1,300名を超える来場者があり、学校全体が人で溢れんばかりの大盛況となりました。ここでもクラスの団結力、そして、仙台城南高生に対する外部の方々への関心の高さが伺えた、素晴らしい一日となりました。

また、部活動に於いても、本校の伝統部である「空手道部」や「レスリング部」に加え、「フェンシング部」は、宮城県高校総体では9年ぶり7度目の団体優勝を果たし、インターハイでもベスト8に入賞しました。テレビでも紹介されましたが、部員が一丸となって全国の頂点を目指して一生懸命に練習に励んでいます。

また、「吹奏学部は」、部員が何と10名と少ない中で、宮城県吹奏楽コンクール小編成の部では見事に優勝を果たし、「日本学校合奏コンクール全国大会」アンサンブル部門でも金賞を受賞するなど、大活躍の一年でした。一人で複数の楽器を担当する生徒達の能力の高さ、それに、何と言ってもチーム・ワークの良さが光りました。

更には「自然科学部」です。国の準絶滅危惧種に指定されている「トウホクサンショウウオ」が何と本校の敷地内に生息していたことが4年程前にわかり、今年度はこれまで蓄積してきた調査研究の成果を日本生物教育学会などの研究会で発表するなど、科学者の卵として大忙しの一年でした。

そしてダンス部です。8月に開催された「全国高等学校ダンスドリル選手権大会」では見事に団体で全国優勝を果たし、また、男子個人の部でも1年生の土久岡飛竜君が全国3位となりました。その結果を受け、今月の24日にアメリカのロサンゼルスで開催される世界大会に日本の代表として出場します。是非とも、世界の大舞台上、思う存分、自分たちのパフ

パフォーマンスを発揮し、仙台城南高校ダンス部の名を全世界に知らしめて来て欲しいと思っています。また、9月に開催された「全日本高校チームダンス選手権大会」では団体の部で全国準優勝をすると共に、個人の部では3年生の本郷杏奈さんが何と全国第1位に輝きました。

この一年、急成長を遂げたダンス部ですが、今後は仙台城南高校の顔として新たな伝統を築いて行って欲しいものと期待をしています。

一方、学業の面でも、科学技術科3年の伊藤暉将君が情報ネットワーク施工部門で、高校生としては初めて、11月に栃木県で開催された技能五輪に出場しました。また、宮城県では本校の生田目怜音君、高山隆成君、青野真樹君の3名だけでしたが、全国工業高等学校長協会より、資格取得や技能検定で特に優れた成績を納めた者だけに贈られる、ジュニアマイスター顕彰特別表彰を受賞しています。

ただ今、御紹介させて頂いたのは、ほんの一例であり、この他にも、みやぎ全国総合文化祭での生徒会執行部の活躍、その他の生徒会活動や部活動、そして、各種大会への出場や資格取得など、様々な面でそれぞれが良く頑張りました。卒業生全員の皆さんを褒め称えると共に、本校に対する大きな貢献に感謝をしたいと思えます。

さて、皆さんは、今後、それぞれが選んだ道を歩んで行くこととなります。これから先は決して平坦な道ばかりでなく、登り坂や下り坂、或いは、デコボコ道など様々な道を歩むことになるでしょう。

卒業式に当たり、私から皆さんへの最後のメッセージとなりますが、是非とも伝えておきたい事柄を一つに絞ってお話しします。

それは、『**経験から学べ**』とすることです。

これまでは、先生方などがいて皆さんは予め敷かれてあったレールの上を安心して走って来た電車のようなものでした。でもこれからは違います。行き先を自分で定め、それに辿り着くためのレールも自分で敷かなければなりません。途中で山が有れば、トンネルを掘るのが良いのか回り道をするのが良いのか自分で判断しなければなりません。

人は経験を積むことで磨かれるものです。それも、上手く行った経験よりも失敗した経験からの方が多くのことを学ぶことが出来ます。例えば、失敗した時に味わった孤独感で、人の情けや心の暖かみに気付くようになり、また、上に向かって這い上がろうとした時に、的確な判断力や素早い行動力などの重要性に気付きます。

「若い時の苦労は買ってでもしろ」と言う諺もあります。若い時の失敗や苦労は、必ずや貴重な経験となって、将来の自分に役に立つことになるでしょう。

失敗したとしても、前に転べば次への可能性に繋がり、後ろに転べば後悔だけで終わってしまうものです。人生は、常に、前へ、前へ、です。

これからは、悲しいこと、苦しいこと、悩むこと、など沢山あることでしょう。そのような時には、冬休み明け集会の時に御紹介させていただいた、大阪のミュージシャンである、シンゴ・西成さんの言葉「人生は、一步一步、それも、焦らず、腐らず、諦めず」を思い出して下さい。

皆さんは、いよいよ3年間慣れ親しんだ「学び舎」を離れ、それぞれの道を歩むこととなります。卒業後も仙台城南高校での思い出を「心」の拠り所として、皆さん、お一人お一人、輝かしい未来に向かって、邁進されることを期待しています。

卒業したとは言え、皆さんはこれからも「チーム仙台城南」の一員です。大きく成長された皆さんに、また、お会い出来ることを楽しみにしています。

結びに、本日、御臨席を賜りました御来賓、並びに、保護者の皆様、そして、334名の卒業生の皆さんの今後の御健勝・御多幸をお祈り申し上げ式辞といたします。

平成30年3月1日

仙台城南高等学校 校長 中川西 剛